

シビルたんば

丹波市市民活動支援センター情報誌

No.2

※「シビル(civil)」とは英語で「市民の」という意味です



「おもしろそう」
「もっと知りたい」という
自分の好奇心によりそって
ともに歩いていきましょう
お気軽にお立ち寄りください！

- 2p 市民カレッジ開講 第1回～3回
- 3p 市民カレッジ アンケート結果
- 4p 竹釘づくりの技を受け継ぐ
- 5p 自治協議会紹介コーナー
- 6p 市民プラザ利用登録団体紹介
- 7p ここはどこでしょう？
- 8p 市民カレッジ受講者募集
市民プラザ交流会(仮)のお知らせ

丹波市市民プラザ
tel.0795-82-8682

丹波市市民活動支援センター
tel.0795-82-8683

丹波市氷上町本郷300番地 丹波ゆめタウン2F
開館時間 ● 10:00 ～ 18:00 休館日 ● 毎週月曜日・年末年始



ホームページ



@SHIMINPLAZA.SITE

たんば市民カレッジ

第1回 甲子園と三崎省三の功績



甲子園球場を作った三崎省三の話に引き込まれる参加者

丹波市市民プラザで6月21日、今年度の「たんば市民カレッジ」が開講しました。第1回目は、「甲子園を作った丹波市生まれの三崎省三」と題し、NHKテレビの「歴史探偵」にも出演されている丸山健夫武庫川女子大学名誉教授に講演いただきました。

丹波市出身にこのような方がおられ、あの甲子園球場を設計し、約4か月で完成に導き、日本の球史や甲子園地区のまちづくりにも足跡を残されてきました。

二人とも、小学校低学年のころの体験を語られました。宮永さんは、「当時暮らしていた大阪を離れ、ひとりで疎開するため、家族と大阪駅で別れるのがつらかった」「疎開先の滋賀で飛行機からの機銃掃射を受け、竹藪の中に逃げ込んだ」と振り返られました。片山さんは「市島駅で出征兵士を見送り無事に帰って来てほしいと、子どもながらに思っていたが、遺骨となって迎えた時は本当に悲しかった」と話されました。

いたという学びと、丸山先生による三崎省三研究の成果をお聞きし、とても快活な話に引き込まれるような雰囲気、会場が一体となる楽しい学びのひと時になりました。

第2回 きびしい戦時下の生活語

7月26日、第2回たんば市民カレッジ「戦争体験を語る」が開かれました。丹波市内在住の宮永アサ子さんと、片山幸子さんを語り手として迎え、西尾征樹市民プラザ統括が聞き手となりました。参加者の皆さんも時々深くうなずきながら話に聞き入っておられました。



きびしい戦時下の生活についての体験が伝わった講座

第3回 腹話術の魅力 会場に

8月2日、第3回たんば市民カレッジ「笑って人生長生きに腹話術」が



腹話術で楽しい雰囲気につつまれた会場

開かれました。講師は、腹話術を始めて50年になる平山和志さん（青垣町）です。

平山さんは、最初の発声練習の後、「くちびるを動かさないで、裏声を出しましょう」と参加者に呼びかけ、皆さん思い思いの裏声が会場に響きわたりました。「裏声言葉（人形の高い声）」と人の声を繰り返すことで、会話になる。自分の声と裏声で人形とのやりとりをするのが腹話術」と紹介。

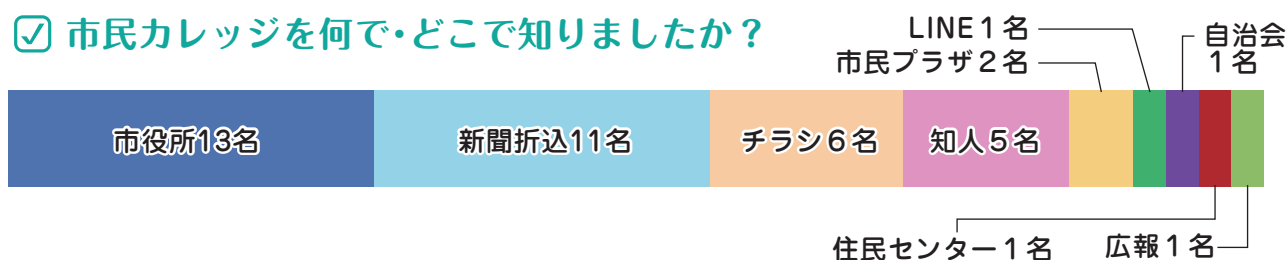
続いて、人形の大五郎ちゃんが登場すると、会場は拍手喝采。平山さんと人形との絶妙な掛け合いや、平山さんの助手で綾部市の活動グループの中山春美さんも登場され会場に笑いが巻き起こり、皆さん腹話術の魅力にはまった様子。最後に水戸黄門のテーマ曲に合わせて、替え歌を大五郎ちゃんと一緒に歌って盛り上がりしました。

市民カレッジアンケート結果(第1～3回) (アンケートにご協力いただいた方の数値です)

参加者の年齢



市民カレッジを何で・どこで知りましたか？



感想

【第1回】

- ・とてもいい講座の企画をありがとうございました
- ・先生の熱量が伝わってきた
- ・他の人にも伝えたい
- ・丹波市民として丹波の人を知るとても感動するお話でした
- ・参加者が増えたい
- ・見分を広めるべくカレッジの内容に興味があった
- ・もっと丹波市ゆかりの偉人の事を知りたい
- ・甲子園に興味があった
- ・地元の偉人だったので興味深く聴けた
- ・座学以外の講座も検討してほしい
- ・シニアカレッジと違って男性が多い

【第2回】

- ・貴重な話を聞かせていただいて良い勉強になります
- ・色々な取り組みの内容で興味深い
- ・今までと違って当事者の話が聞けた
- ・家にいる機会が多く、何でも興味があるので飛びついた
- ・今年は新しい講座で楽しいです

【第3回】

- ・腹話術での発声の仕方が良くわかった
- ・声を出す勇氣が必要
- ・人形が可愛かった
- ・笑いあり、楽しかった
- ・最初ドキドキしたが、徐々に笑いも出て楽しかった
- ・口を動かさず話してみたい
- ・テーマと講演内容が違って残念
- ・何にでも好奇心を持って過ごしていきたい
- ・毎回テーマが変わって面白い
- ・人と人との会話に役立つテーマだった

今後取り上げてほしいテーマについて

- ・丹波市各町の歴史
- ・丹波市の河川について
- ・長寿
- ・丹波史
- ・地元の話、簡単なスポーツ紹介
- ・現地見学会
- ・丹波の未来
- ・今後も丹波出身の人の事を知りたい
- ・丹波人物伝に掲載の方を題材

自由記述

- ・三崎省三の名は顕彰されるべき
- ・高齢になったが出来るだけ参加したい
- ・今後は、少しずつパソコンなども勉強したい
- ・三崎氏は、もっと語り継がなければいけない偉人だと思った
- ・戦争体験者の話をもっと聞きたい
- ・楽しい講演だった
- ・高齢者のサロンの居場所作り
- ・毎年続けてほしい
- ・メモをとる機が欲しい
- ・興味のある講座を選べるのが良い

竹釘づくりの

技を受け継ぐ

丹波市には様々な伝統技術が残っています。

国宝・重要文化財の建造物などに使われる竹釘づくりの技術を伝承している、国選定保存技術保持者である石塚商店の石塚直幸さん(53) 〓 丹波市山南町梶 〓 に話を聞きました。



高座神社(山南町)の檜皮葺の屋根

― 石塚直幸さん(山南町) ―

この道に入って27年になります。竹釘の国選定保存技術保持者の祖父、芳春(故人)が体調を崩し、このままでは日本に一軒になった竹釘づくりの技術が途絶えると感じ、優れた技術を祖父から直接教わろうと後を継ぐ決心を固めました。

しかし、実際足を踏み入れてみると、刃物の研ぎ方一つをとっても難しく、竹釘を作る際の力加減など、様々な作業の感覚を身につけるのに時間がかかりました。近年になってようやく、自分の思い通りの竹釘をつくれるようになりました。

竹釘の材料となる竹は孟宗竹です。近年、ソーラーパネルの設置で竹林がなくなったり環境整備による伐採などで、竹釘の材料として使用する良質で太い孟宗竹を確保するのに苦労しています。

一般に使われる金釘は錆びやすく、耐用年数が短かいのに対し、竹釘は焙煎することにより次の葺き替えの約40年先まで十分に保たれるというメリットがあります。

宮大工が文化財の修復をする時にも、金釘だと修理する部分を全部取り除いてからでないと鉋かんなをかけられませんが、竹釘はそのまま

鉋かんながけできるメリットがあります。

過去20年に竹釘を納めた神社は、京都御所、出雲大社、上賀茂神社、下鴨神社、厳島神社、首里城、清水寺、善光寺などがあります。丹波市内では、高座神社(山南)、柏原八幡宮などがあります。最近では、比叡山延暦寺回廊、妙心寺大庫裏、室生寺金堂・五重塔などの依頼が来ています。

国宝・重要文化財の屋根以外に仏像の修繕や茶室などにも使われています。

旅先やテレビで日本の古来から受け継がれてきた有名な建造物(重要文化財など)を見る度に自分の仕事の大切さ、やりがいを感じています。今後はこの技術の後継を望んでいます。

今の休みの楽しみは、ゴルフや、おいしいものを食べることです。



約40年間檜皮葺を支えた竹釘(実物)

ふるさと沼貫を次世代に



自治振興会の拠点となっている沼貫交流館

沼貫地区自治振興会では、今後の10年間を見通した地域づくり計画の策定に取り組んでいます。3月13日に第1回の地域づくり計画策定委員会の沼貫交流館で開催し、地域づくり計画の目的と策定スケジュールを定めました。4月24日に開催した第2回（令和8年度第1回）の策定委員会では、丹波市市民活動課から説明を受けました。沼貫地区の人口や高齢化率の現状と将来予測などのデータが示され、地域づくり交付金制度についても理解を深めることができました。6月19日の3回目の委員会においては、市民活動支援センターから、「多

くの人が関わることでできる計画づくりを」との示唆を受けました。さらに8月7日には役員によるコア会議、28日には4回目の策定委員会を開き、アンケート調査の実施などについて検討しています。

沼貫地区は丹波市氷上町の南西部にあたり、加古川に沿った豊かな田園風景をもつ環境に恵まれた地域です。昔、氷上町から青垣町にかけては沼地であり、その水を抜く（貫く）地域であったことが地名の由来となっています。昭和48年（1973）に始まった「ぬぬぎふるさとまつり」は、夜空にはじける花火をメインに多くの来場者を集める地域のイベントとして定着しています。また、「つながろうぬぬぎ会議（支えあい推進会議）」は、社会的孤立を防ぎ、安心して暮らせる地域をめざして、話し合いや実践を何年も重ねてきました。これらの地域資源や経験を活かしながら、地区住民のウェルビーイングを実現できる地域づくりを進めていきます。

※ウェルビーイング＝身体的・精神的・社会的に良い状態にあること



イベントで盛り上がる「ぬぬぎふるさとまつり」

打田哲夫会長の話

人口の減少や少子高齢化、地域の稀薄化、防災対策など多くの課題が山積するなか、安心安全で生き活きた地域づくりを推進するためには、住民の意識の向上と積極的な参加が望まれます。

地域づくり計画の策定に於いて、自然と文化・歴史の調和と伝承を図り沼貫の良さを再認識します。地域の資源を活用し、「自治意識」の更なる高揚を図り、「支え合い・助け合い」という思いを皆さんと共有しながら人とひとが穏やかに繋がり、地域が目指す将来像を描きます。主体的な活動方針のもと、ふるさと沼貫を次世代につなぐ特色のある持続可能な地域づくりを、子どもたちから高齢者まで皆さんと一緒に楽しく賑やかに進めてまいります。

「若い人が来てくれる場に」

地域コミュニティ活動推進員連絡会議

課題出し合い意見交換

本年度第1回の「地域コミュニティ活動推進員連絡会議」が7月24日、市民プラザで開かれました。市内の自治協議会、自治振興会で活動する地域コミュニティ活動推進員が一堂に会し、研修や交流を深めました。

市民活動課からは、「地域づくり交付金」や「地域コミュニティ活動推進員連絡会議」の位置づけについての説明がありました。続いて、市民活動支援センターから「地域づくり計画の20年」と題して話をさせていただきました。市の人口が減少する一方で、子育て世代や高齢者世帯にとって、生活の場としての「地域」の役割は重要になっており、地域のみんなで一緒に今後の将来像を考えていくことは大切なことであ

り、これからを見据えた地域づくり計画策定の必要性を説く内容でした。

この後、2グループに分かれて、地域におけるまちづくりの合意形成の方法などについて意見交換しました。次世代を見据えた計画づくり、地域の皆さんの意見を集約するためのアンケートなどの取り組みが発表されました。推進員からは「若い人の意見をどのように反映させたらいいのか」「年配者の多い地域の会議に、若い人がどうしたら来てくれるのか」など共通の悩みや課題について声が上がするなど充実した会になりました。



地域づくりの課題などについて意見交換する地域コミュニティ活動推進員

丹波市市民プラザでは、
様々な団体や個人が登録し
活動を展開されています。

心と体整える ほっこり体験会も

今回は、特定非営利活動法人(NPO 法人)
タッチングアロマ笑香(えみか)の理事長
吉竹節子さんに紹介していただきました。

NPO 法人
タッチングアロマ
笑香(えみか)



Instagram



かんまつ
木甘木香類がはいっているの
とってもさあやかな香りです

3歳以上のこどもも使える
キッズオイル3種類



私たちは、ソーシャルアロマセラピスト®を取得
した会員25人が、丹波市と丹波篠山市を中心にこ
どもから高齢者まで幅広い年齢層の方々に香りとタ
ッチングを用いたアロマセラピーに関する事業を展開
しています。また、障がいがある人の社会参加と自
立を目指した事業も進めています。

この設立のきっかけは、2008年、丹波篠山市教育
委員会主催の「こどもの心に働きかけるアロマセラ
ピー」の研修会でした。植物の香りのすばらしさや
タッチングの効果について研修を深めつつ、学校ア
ロマ研究会を発足し、2023年に特定非営利活動法人
タッチングアロマ笑香の設立に至ります。

ハンド・肩首周り・フットのアロマトリートメン
トを提供し、トリートメントが苦手な方には、香り
(植物の精油)やハーブを利用したワークショップも
開催しています。丹波市市民プラザでは、1～2か
月に1回、「みんなの楽校」(旧和田中学校)では、
1か月に1回のペースで「アロマでほっこり体験
会」を開催していますので、暮らしの中で上手に取
り入れていただき、心とからだを整えにお越しくだ
さい。体験された方からは「優しい香りのオイルで
触れてもらうのは、心がほぐれてからだが楽になり
ます」と嬉しい声を聞いています。SNSでも発信し
ていますのでどうぞご覧ください。

「昔ばなし」の舞台訪問 関大ゼミ生 先人の思いに触れる

話を聞きました。



石門寺で観光ガイドから本光さんにつ
いて話を聞く学生ら＝柏原町下小倉で

関西大学(大阪府吹田市)の環境都市工
学部井ノ口弘昭教授の「地域再生」ゼミ
生ら13人が8月20日、丹波市内の柏原、氷
上地域でフィールドワークを行いました。
「丹波のむかしばなし」のゆかりの地に足を
運び、物語の背景や昔の人々の思いに触れ
ようと数年前から実施しています。

柏原では、「法蓮寺ぎつね」(下小倉「本
光さん」(同)「田路のみずかえうた」(田路
いばとりふどうさん」(挙田)を、丹波柏
原ふるさとガイドクラブの2人が説明。氷
上では「大阪のかえると丹波のかえり」(石
生)「本郷川の尻引マント」(本郷)「西中の
箱森神社」(西中)を訪ね、丹波市ええとこ
ガイドの2人がガイドしました。

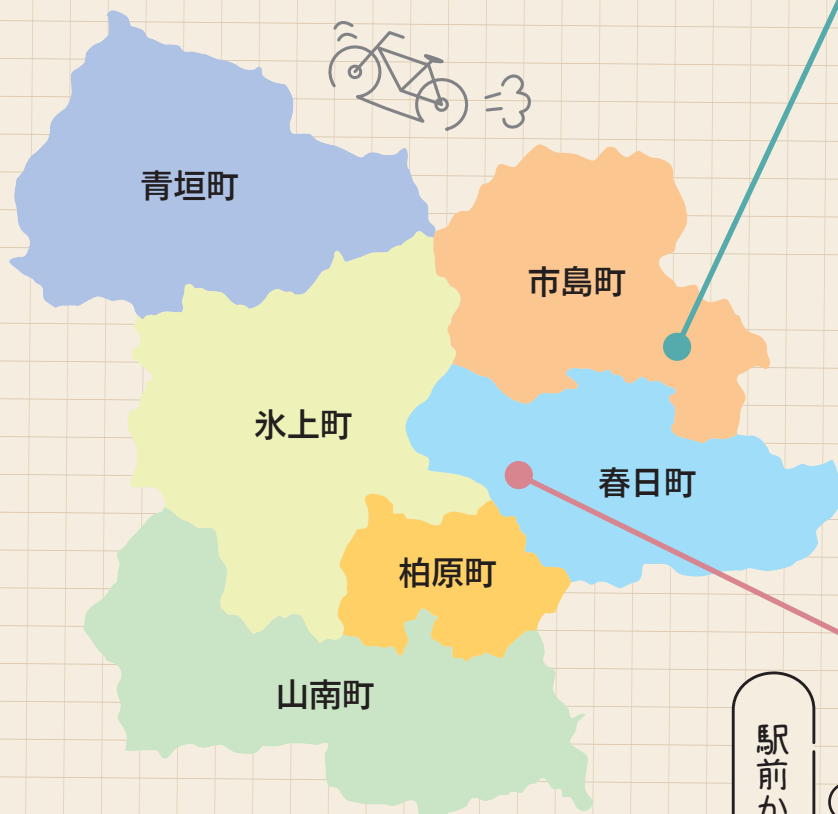
「本光さん」の話は石門寺という尼寺で、
明治時代に住職をしていた「学道本光尼」
にまつわる話。ガイドの竹内 脩さんは「日
照りが続いたときに、本光尼が村人にと
もに祈禱したところ雨が降り、みんな
喜んでと伝わる。以来、雨ごいの風習が
続いており、地域の人は親しみを込めて
本光さんと呼んでいる」と説明しました。
「かえる」の出合いの舞台になった日本海
と瀬戸内海に水が分かれる「水分れ」では、
学生たちは、本州一低い中央分水界の珍
しい地形に興味
を深めた様子でし
た。フィールド
ワークを世話した
関西大学佐治スタ
ジオの植地 惇さ
んは「学生が地域
に残る物語や歴史
について少しでも
関心を深めてくれ
ればうれしい」と
話していました。

ここは どこでしょう？



丹波市内の地区名を
お答えください

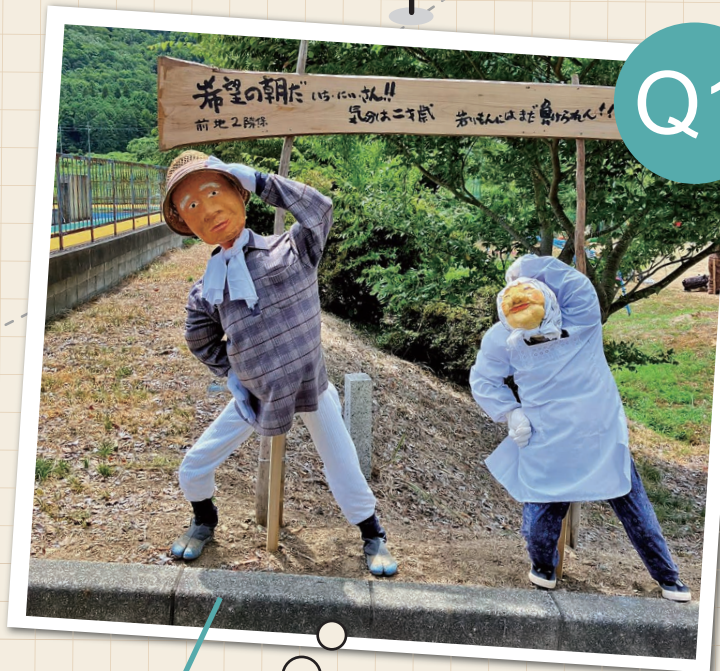
知ってるようで知らない
丹波市のいいところを
訪ねてみました



Here /



Q1



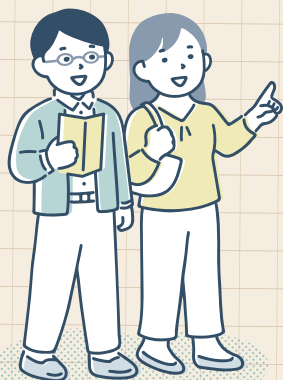
毎年話題の夏のイベント。
今年も8月に開催されました



Q2



駅前から城下を見守っています



答えは他の
ページの
どこかにあるよ
探してみてね！

たんば市民カレッジ 受講者募集

回数	日程	テーマ	講師名
第6回	10月11日(日)	人にやさしい俳句	大阪教育大学講師(元教授) 岡田耕治さん
第7回	11月8日(日)	みんなで聞く丹波の民話	「ほ〜げんたんば」(代表:野村文男さん)の皆様
第8回	12月6日(日)	今更聞けないスマホの基本活用術	国立大学附属中学校教員 古澤拓実さん
第9回	1月24日(日)	遺産相続を考えましょう	丹有法律事務所 弁護士 馬場民生さん
第10回	2月28日(日)	丹波びとの魅力 人から、モノから ー パネルディスカッション ー	パネリスト:山内順子さん、梅谷浩子さん、丸山健夫さん コーディネーター:萩原雅也(市民プラザ館長)

